

== 関係部署にご回覧下さい ==

LPGC Report

エルピーガス振興センターレポート

4 October 2001

平成13年度の国の補助事業として行われている事業のひとつ、バルク貯槽を導入する際の補助について活用のメリットをご案内します。

利用状況

家庭用バルク貯槽導入補助制度は、消費者がバルク貯槽を所有する場合、その設置費用の一部を補助します。前期(9月末)の申請状況は、94件(申し込み金額11,489千円)で予算500件(予算金額1億円)に対し、利用率19%(金額比11%)となっています。

有効活用の仕方

LPガスの商習慣では販売店が供給設備を所有するケースが多いため、消費者に貯槽所有を推奨できないとの話もありますが、バルク供給のメリットと当制度を消費者に説明し有効活用している**LPガス販売事業者**の代表例を紹介しますので、参考にして活発にご利用頂きますようご案内します。

導入メリットと補助対象者

1. 入居者に対し美観の向上と保安の充実を提供できる。
 - ……集合住宅・店舗併設集合住宅の所有者
2. 保安の充実と美観の向上が図れる。
 - ……戸建集団供給住宅の自治会・管理組合
 - ……市営・町営住宅の責任者
3. 安定供給とバルク供給用LPガス価格のメリットが得られる。
 - ……戸建住宅・店舗兼住宅のLPガス大口消費者
4. バルク供給のPRが図れる。
 - ……LPガスの販売店店主・従業員

尚、導入補助事業の概要につきましては、後記の「設備助成事業室からのお知らせ」で詳しくご紹介しています。

LPG

第13回世界 LP ガスフォーラム(パリ大会)が開催されました。

1. 大会の名称 : 第13回世LPガスフォーラム
テーマ 「都市、農村、世界中どこでも使えるクリーンエネルギー・LPガス」
2. 開催期間 : 2001年9月26(水)～28日(金)
3. 開催場所 : Hotel Meridien Etoile
4. 主催者 : WORLD LP GAS ASSOCIATION (WLPGA)
5. 会議・行事等 : 9月26日(水)
WLPGA理事会 09:00～11:00
WLPGA総会 11:30～12:30
オートガスセミナー 14:30～18:00
9月27日(木)
・セッション I 10:45～12:45
「国際レベルでのLPガス需要を形つくる要素、そのトレンド」
・セッション II 14:15～16:15
「現在のそして将来のLPガス技術問題」
講演 岩谷産業株式会社 森理事
9月28日(金)
・セッション III 10:15～12:30
「LPガス市場戦略、規制の枠組み」
講演 株式会社桂精機製作所 下中部長
・セッション IV 14:00～16:00
「LPガス販売、ロジスティックへの取り組み」

今回のフォーラムには54カ国、358人の登録参加者がありました。9月11日の同時多発テロの影響で一部キャンセル者が出ましたが、日本からの上記2名をはじめとする講演者は全て出席し、各セッションでは活発な意見交換が行われました。フォーラムの詳細情報につきましては、同時にご案内しました『海外LPガス情報の紹介 No. 70 特集号』でご紹介しています。

また、本件に関するご意見、お問い合わせ等につきましては、調査研究部:中村(雅)宛ご連絡下さい。

ガス体エネルギー改革勉強会が下記の日程で開催され、事務局から説明がありその後自由討議が行われました。

第6回 ガス体エネルギー改革勉強会 9月3日開催

1. 開会
2. 事務局からの説明
 - ・『ガス体エネルギー産業に係る保安規制に関する論点(例)』
 - ・『DME検討会報告書』
3. 閉会

本件に関するご意見、お問い合わせ等につきましては、調査研究部担当:斉藤宛ご連絡下さい。

石油ガス販売情報管理システム調査

規制緩和の流れを受けて電気・都市ガス料金が低減化の方向にある現在、現状のままではLPガス業界が他エネルギーとの競争に勝ち残ることが厳しくなっています。このエネルギー間競争の中で消費者に選択されるためには、LPガス販売業者が積極的にコスト削減を図り、消費者に還元し満足を与え信頼を得ることが必要です。『コストを削減するには、物流を合理化し、「面的な取り組み」が必要である。即ち、現在、同一地域内に小規模で多数の充てん所が存在し、地域内での交錯的な配送がなされているという状況の抜本的な改善が必要である。』とLPガスビジョン検討委員会の提言もあり、現在 卸売事業者が中心として物流や、共同充てんや共同配送等、系列を超えた地域内業務提携の動きが地域的に見られるようになってきていますが、多くの場合、「情報管理システムの違い」が大きな阻害要因となって十分な合理化ができず、大幅なコスト削減にまで至っていないのが実状です。すなわちシステムに一定の統一基準がないため、事業者が独自に開発してきた各々の情報管理システムを統合するか、一方が他方に相乗りするか、又は全く別なシステムの開発をする必要があります。

そこで本調査は、システムの異なる事業者間でスムーズな情報交換を行うことより、交錯配送等を減少させ、流通コストを大幅に削減するためのモデルシステムを開発しようとするものであります。

これまでの研究開発成果と今後の予定

平成13年度は情報システムの共通化を促進する為、平成12年度に開発した委託充てんシステムの実証試験を踏まえ、情報管理システムの異なる販売事業者間で、委託配送・委託保安(容器配送時等供給設備点検)のデータ受け渡しが容易にできるシステムを加えたモデルシステムを構築し、実証試験にてその整合性を確認する事を目的に実施します。こうしたネットワーク化による繋がりが発展すると従来と流通が変わり、消費者の満足あるいは、競合エネルギーとのコスト競争の面で、業界全体にもたらす合理化メリットは図りしれないものがあると思います。

尚、現在本システム調査はシステムの開発も終わり、11月12日からシステムの整合性を確認するために実証試験を行う予定です。平成13度実証試験参加予定の会社は、つぎのとおりです。

1. 株式会社ミツウロコ 武蔵事業所
2. シナネン株式会社 関東支店武蔵営業所
3. 伊藤忠エネクスホームライフ関東株式会社 西埼玉支店
4. 昭石ガス株式会社 西東京支店
5. 岩谷産業株式会社首都圏支店 多摩LPGセンター

本件に関するご意見、お問い合わせ等がございましたら、調査研究部担当:木村宛ご連絡下さい。

石油ガス品質許容値調査

経済産業省資源エネルギー庁の委託調査「石油製品需給適正化調査」の一貫としての調査研究で、平成13年度及び14年度に実施します。

調査研究の目的

我が国の輸入ソースの多角化、安定供給の強化に資するため、ユーザー受容性に係るLPガス品質許容値を見直し、輸入LPガス業界基準を新たに策定するための技術的裏付けデータを作成する。

日本の輸入LPガスに関する対外的な要求品質及び受入規格が明確になっていないことが問題となり、従来からの課題でもある品質試験法不整合によるトラブル対応及び供給セキュリティの観点から輸入LPガスに関する受入規格を明確にして、国内運用基準見直しなどの必要性が求められている為。

調査研究の目標・内容

上記の目的を達成するために、以下の項目を実施調査する。

1. 流通段階別等品質実態調査

輸入LPガス標準スペック策定の一助とする為、一次基地（輸入、製油所）及びユーザーの品質調査を行う。

2. 産ガス国新規プロジェクトの品質分析調査

新規開発プロジェクトの品質調査を行い、新規生産品の品質ポテンシャルを把握する。

3. 品質許容値確定のための各種評価実験

- | | | |
|--------|--------------|----------------------|
| ・要素実験 | 供給機器モデル実験 | : 業務用等実機モデルで品質の影響を調査 |
| | 材料適合性試験 | : ゴム等配管部材への影響調査 |
| | 燃焼機器燃焼実験 | : 燃焼による確認実験 |
| ・実機テスト | エンジンテスト | : LPガス車への影響調査試験 |
| | 産業用実機テスト | : 実機による品質確認 |
| | 一般家庭用モニターテスト | : 家庭用確認テスト |

4. 環境対策上の管理必要項目及び許容値調査

本件に関するご意見、お問い合わせ等がございましたら、技術開発部担当：瀧川宛ご連絡下さい。

設備助成事業室からのお知らせ

平成13年度の国の補助事業として、バルク貯槽を導入する消費者やLPガスコージェネレーションを導入する事業者に対して、その導入費用の一部を補助します。エルピーガス振興センターは、今年度の補助対象者（事業者・消費者）を以下の通り募集しております。

家庭用バルク貯槽の補助

クリーンエネルギーであるLPガスの効率的な利用を図るため、流通の合理化促進に有効なバルク貯槽の設置費用の一部を補助しております。尚、本年度の予算は、十分にありますので奮ってお申し込み下さい。

1. 補助金の額：補助金の額は、設備費に係る経費の1/3または、下表に定める限度額の少ない額。

貯蔵方式	総貯蔵量	限度額
地上式 バルク貯槽	150kg以下	96,000 円
	151kg以上 300kg以下	101,000 円
	301kg以上 500kg以下	171,000 円
	501kg以上	275,000 円
地下式 バルク貯槽	500kg以下	437,000 円
	501kg以上	549,000 円

2. 募集期間 : 平成13年4月25日 ~ 平成14年2月28日
3. その他 :
 - ・補助金の予約は、着工前にお申し込み下さい。
 - ・補助対象者は戸建住宅・店舗兼住宅のLPガス消費者または、集合住宅・店舗兼集合住宅のオーナーになります。また、戸建集団供給の場合は、自治会・管理組合になります。
 - ・申請書類・パンフレットは、センターより送付しますのでFAXにて依頼願います。
4. 今年度の申請者の状況 : 補助金申請は、以下の方々から来ております。
 - ・平均月間消費量20m³以上の消費者(販売業者がバルク供給用LPガス価格を条件にバルク貯槽の需要家所有を提案)
 - ・LPガスの販売店主や従業員のご自宅
 - ・アパート・集団供給のオーナーや自治会

コ・ジェネレーションシステム導入費用の補助

LPガスコ・ジェネレーションシステム(CGS)は、クリーンエネルギーであるLPガスを用いて発電するとともに、その際に発生する排熱を冷暖房や給湯などの用途に有効活用するため、エネルギー効率が高く、環境負荷低減に貢献するエネルギー供給システムです。国は、環境対策として、このシステムの導入促進のためにモデルとなる導入事業者に対し、その費用の一部を補助します。

1. 補助金の額 :
 - ・ガスエンジン方式 — 対象事業費の1/2又は、4,500万円のいずれか低い額
 - ・燃料電池方式 — 対象事業費の1/2又は、7,500万円いずれか低い額
2. 選定基準 : 応募者の中で、最も先導的でデモンストレーション効果の高い事業者を各方式1件選定します。
 - ・発電容量 : ガスエンジン方式 — 発電能力が単機で250kw 以上システム全体で500kw 以上
燃料電池方式 — 発電能力が単機で200kw 以上システム全体で200kw 以上
 - ・省エネルギー効果が5%以上あること。
 - ・用途が民生用または業務用であること。
 - ・平成14年3月10日までに事業が完了すること。
3. 公募期間 :
 - ・平成13年度は、平成14年3月10日までに事業が完了することを条件に、募集しております。
 - 尚、平成14年3月11日以降に事業が完了する場合は、ご相談下さい。
4. CGS導入事例と発電容量 :
 - ・CGSの導入効果は、排熱を上手く使う事によって決まります。よって、温水の使用量の多い病院・ホテル、冷暖房の熱源としてスーパー等に多く設置されています。
 - ・発電容量は、病院で総デマンド量の1/3、スーパー・ホテルで総デマンド量の1/2とされています。尚、最近では、熱の必要量に合わせて、発電容量を決めるケースが増えていきます。

家庭用バルク貯槽導入補助制度およびコ・ジェネレーションシステムの導入に関するご意見、お問い合わせ等がございましたら、設備助成事業室担当:内田(一雄)・内田(浩)宛ご連絡下さい。

第11回エルピーガス振興センター研究成果発表会の開催(案内)

平成12年度に当センターが実施した技術開発、調査研究事業に関する成果についての発表会の詳細が決まりました。既に賛助会員及び関係先の皆様には案内・申込書を送付済みですが、重ねてご案内させていただきます。

第 1 1 回 研究成果発表会プログラム

日 時： 平成 1 3 年 1 1 月 3 0 日 (金) 1 0 : 0 0 ~ 1 6 : 3 0

場 所： 発明会館 大ホ - ル (地下 2 階)

発表会次第： (司会：事務局長)

1 . 開会挨拶 理 事 長 河 合 正 人 10:00 ~ 10:15

2 . 来賓挨拶
経済産業省 資源エネルギー庁
資源・燃料部 石油流通課 企画官 渡 辺 道 明 氏 10:15 ~ 10:30

3 . 研究成果発表
) 低品質 L P ガス利用技術開発 瀧 川 賢 藏 10:30 ~ 10:50
(海外の低品質 L P ガスを我が国で利用するための技術開発)

) 高効率 L P ガスエンジンの開発 上 田 早 苗 10:50 ~ 11:10
三 浦 昭 憲
(高効率、低公害型の直噴型 L P ガスエンジンの開発)

) 石油ガス高効率バーナの開発 山 本 佳 之 11:10 ~ 11:40
(家庭業務用高効率・低公害型の新タイプのバーナの開発)

) L P G 消費国流通消費動向調査 斉 藤 典 明 11:40 ~ 12:00
(全国の地域別 L P ガス販売事業者の経営モデル指標の構築)

= 昼 食 =

講 演 『 マイクロパワー革命 』 13:00 ~ 14:30
講 師 青森県立保健大学 健康科学部 助教授
資源エネルギー庁 燃料電池実用化戦略研究会 委員
金 谷 年 展 氏

= 休 憩 (コ - ヒ - ブレイク) =

) 技術開発波及効果分析調査 斉 藤 典 明 15:00 ~ 15:20
(家庭業務用消費機器の異種機器統合によるエネルギー利用効率化の可能性調査)

) 石油ガス販売情報管理システム調査 木 村 博 15:20 ~ 15:40
(地域充てん所の共同利用システムのモデル構築)

) 石油ガス開発計画可能性・政策動向調査 榎 本 満 夫 15:40 ~ 16:00
(カナダにおける L P ガスの開発可能性調査 (現地調査報告) ・
旧ソ連地域内における L P ガスの政策動向調査)

) 石油ガス需給等基礎動向調査 桜 井 長 広 16:00 ~ 16:20
(世界の L P ガス需要・生産・貿易等の見通し等のデータベース構築)

4 . 閉会の辞 専務理事 中 村 紘 一 16:20 ~ 16:30

= 1 6 時 3 0 分 を 終 了 予 定 と し て い ま す 。 =

以 上

今回の講演は青森県立保健大学 健康科学部助教授 ^{かなや としのぶ} 金谷 年展 氏の『マイクロパワー革命』を予定しています。

金谷氏プロフィール

1962年札幌市生 東北大学大学院理学研究科博士課程修了、理学博士

1990年 株式会社富士総合研究所入社。

同社主事研究員の後、株式会社プラクシス代表取締役社長として健康・環境・エネルギー問題に関するリサーチャー、アジェンダセッター(戦略構築家)、コンサルタントをつとめ、1999年4月より青森県立保健大学健康科学部助教授。

資源エネルギー庁「燃料電池実用化戦略研究会」委員の他、多数歴任。

『生活者重視社会』『循環型社会』『地域資源活用型社会』へ向けた社会システム研究に従事。

横浜国立大学 講師(非常勤)も歴任する。また、1988年には日本地理学会奨励賞を受賞している。

参加費：参加者1名につき5,000円(参加費は当日ご持参下さい。領収書を発行します。)

要旨集：参加者には一部を配布させていただきますが、それ以外に予講集を希望される場合には、2,000円/冊にて頒布させていただきます。

参加申し込み：「第11回 研究成果発表会 参加申込書」にて、来る**11月16日(金)**(当センター必着)までにFAXでお申し込み下さい。

(申込書が必要な場合は当センターのホームページに載せておりますので、ご活用下さい。)



本件に関するご意見、お問い合わせ等がございましたら、研究成果発表会担当：郷戸・守山宛ご連絡下さい。

9月11日にアメリカで発生した同時多発テロは世界中を震撼させましたが、その後も炭疽菌テロがあり、何とか早期の解決が出来ないかと願うところです。背景には少なからずパレスチナ問題があり、この解決が何よりですが問題が拗れてアラブとイスラエルとの戦いに発展しないように、中東諸国からの石油やLPガスの安定供給に支障をきたす事態に成らないようにと思っています。

この様な中で、本誌のトピックスでご紹介しましたように9月26日～28日にパリでWLPGフォーラムが開催されました。世界が予断を許さない状況で不参加者も出ましたが無事に開催され、シンポジウムでは岩谷産業株式会社、株式会社桂精機のプレゼンテーションが好評を博し、我が国のLPガス業界がアピールでき、WLPGAの窓口である当センターとしても嬉しく思っています。

当センターはLPガス産業の振興やLPガスの安定供給のため種々の調査・研究を実施していますが、本誌の“事務局からのお知らせ”のとおり第11回研究成果発表会を11月30日(金)に開催します。特別講演は「マイクロパワー革命」の執筆者である金谷年展氏にお願いし、現在好評中の本「マイクロパワー革命」と同名の演題でお話いただきます。本の中では、これからエネルギーは燃料電池であり、最前線では熾烈な開発競争を行い実用化目前で、家庭用が自動車用より先行して普及し、将来のエネルギーは分散型となり、エネルギー関係者は虎視眈々とその準備を進めているとしています。そこで、その原燃料としてはLPガスへの期待が大きいとしています。

講演では、マイクロパワー革命とLPガスの生き残り戦略についてもお話があるとのことで、LPガスを再認識し、エネルギー間競争を乗り越えるためにも、是非お聞き下さい。研究成果発表会には、多数の方々のお越しをお待ちしています。

(財)エルピーガス振興センター



〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目19番5号 虎ノ門一丁目森ビル

TEL 03-3507-0041(代表) FAX 03-3507-0048
03-3507-0047(設備助成事業室)

ホームページURL: <http://www.lpgc.or.jp>
Eメールアドレス: info@lpgc.or.jp

送付先変更等のご連絡は、現在の送付先と変更後の送付先を明記の上、
FAX 又はEメールでお願いします。